

# 病害虫発生予察特殊報 第5号

害虫名 オオタバコガ *Helicoverpa armagera* (Hubner)  
発生作物 いちご

## 1 発生経過

平成 14 年 10 月、東信地区の施設栽培いちごでオオタバコガ幼虫による蕾や幼果の食害を確認した。本種は平成 6 年頃から全国で多発するようになり、本県においてはトマトやレタス、花き類などの重要害虫となっている。

いちごでの被害は、これまでに栃木県（平成 8 年）や神奈川県（平成 12 年）などで確認されている。

## 2 形態

成虫は前翅長が 15～18mm、翅の色は緑灰色～濃褐色である。

卵は直径約 0.4mm の半球形で、色は淡黄色。1 卵ずつ産み付けられる。

幼虫は体色が淡緑色～濃褐色で、個体により変異が大きい。体表にはまばらに毛が生える。老熟すると体長約 40mm になる。

## 3 生態と被害

産卵は夜間に行われ、寄主植物体上に 1 卵ずつ産み付ける。雌成虫は多いものでは 1,000 卵以上産卵する。卵から成虫までの生育期間は、25℃ではおよそ 1 ヶ月である。成虫は、県内の多いところでは、5 月から 10 月にかけて 3～4 回発生する。フェロモントラップによる調査では、8 月中旬頃から誘殺数の急激な増加が見られる。

いちごでは苗の定植後に成虫が飛来、産卵し、孵化した幼虫が食害すると考えられる。若齢幼虫は生長点付近を、中齢以降の幼虫は蕾や幼果、葉を加害する。

加害作物はいちごのほかトマト、ピーマン、レタス、アスパラガス、きく、カーネーション、トルコギキョウなど多種に及ぶ。

## 4 防除対策

- （1）施設の開口部に寒冷紗を張り、雌成虫の侵入を阻止する。
- （2）新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいるので見つけて捕殺する。